

学校の共通目標

授業作り	重点	基礎・基本の徹底のうえに、習得した知識・技能を用いて思考力・判断力・表現力を向上させ、学びに対する主体性を育む。	中間評価	生徒の実態に応じた単元テストや技能テスト、発表活動などの実施で意欲を高め、成果が出ている。	最終評価	個別最適化された学習課題や対話的な学習、発表活動などとおして思考力・判断力・表現力の向上がみられた。
		新宿区版 GIGA スクール構想のもと、ICT 機器の利点を生かした効率的で分かりやすい授業の構築を行う。		タブレット端末を使って発表したり、課題のやり取りをしたりするなど活用が進んでいる。		タブレット端末の日常的な活用が定着しつつあり、画面共有やクラウドなどの機能を用いた効率的な学習が行えた。

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調書くこと、読むこと、言語についての知識・理解・技能の各観点では、全国及び区の結果を上回っている。一方、話すこと・聞くことのポイントが、全国・区より下回っている。</p> <p>学1年生は、授業や学習に取り組む意欲が高い。</p> <p>学2年生は、課題を把握して主体的に取り組む力や態度に個人差がある。</p> <p>学3年生は、概ね落ち着いた態度で意欲的に授業に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」ことへの苦手意識をもっている生徒が多い。 ・字を書くことに苦手意識があり、文字が乱雑にしか書けない生徒が少なくない。漢字を避けて平仮名だけの文章を書く生徒が少なくない。 ・人前で自分の意見を発表することに苦手意識をもっている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」ことに重点を置いた指導を行う。普段のノート記入やワークシート記入、授業の感想や学習の振り返りなどを書く作業を折々に設定する。また、その点検をする中で、書字指導を個別に行う。 ・プリントをファイリングする指導を行う。 ・スピーチや討論という形にこだわらず、ペアトークやグループでの話し合いを設定する。自分の意見をまとめる方法について、段階的に指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業記録やワークシートの記入、学習の振り返りを「あとがき」にまとめる作業などとおして、書くことを学習の中に位置付けて実施している。話し合いの学習において聞いた内容を整理しながらメモする力の育成に努めている。 ・グループで話し合うテーマについて問題点を整理する方法を学び、パネルディスカッションでは、意見を聞き合いながら、自分の意見を表現する方法、司会の方法などの指導を段階的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況に応じて書く力が向上した。手紙などの相手を意識した文章では、楷書または行書を用いて、丁寧な読みやすい文字で書ける生徒が増えた。 ・「意見文」では、自己の主張を述べるだけでなく、根拠を示し、反論に対する意見を織り込みながら、文章にまとめる力が向上した。 ・パネルディスカッションなどとおして、話し合いを効果的に進める力が向上した。また、自分の意見を積極的に発表する生徒が増えた。
社会	<p>学 各学年、意欲的に取り組む生徒が多いが、一部、なかなか興味を抱けず、集中しきれない生徒も見られる。</p> <p>学 複数の資料から必要な情報を抽出し、関連付けて説明したり、事象について自分の言葉で表現したりすることに苦手意識がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な部分など、既習事項の定着に大きな差が見られる。 ・資料を深く読み解いたり、関連付けたりすることや、人前で自分の考えを表現することに苦手意識をもっている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着を図るために、手作りで問題集を作成し、基礎事項を確認するとともに、授業のまとめで要点部分をまとめさせるなど学習内容を振り返る方法も工夫する。 ・ワークシートやノートを活用し、複数の資料を比較する場面を設ける中で、関連付けながら考察する力を伸ばす。また、考察したものを根拠に、グループやクラス中で発表する機会を設けることで応用する力を段階的に育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作り問題集での記述や授業のまとめなどとおして単なる知識の暗記から、理解して判断・表現する力の向上が見られ、記述量も増加している。 ・ノートを活用し、資料と関連付けた表現が多く見られるようになってきた。次の段階として、自ら課題やテーマを設定し、探究的に学ぶ授業展開を増やす中で、学びに向かう力の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元でのアンケートなどの結果から、身近な社会事象の考察を行う活動場面において、社会科への関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多くなった。 ・ノートを活用し、資料と関連付ける活動などとおして、定期考査などでも複数の資料を基に考察できる生徒が多くなった。 ・一方で、タブレット端末を活用し、資料の考察を踏まえて、自分の考えを表現する活動などとおして、自分なりの考えを表現する力がまだ十分身に付いていない生徒も見受けられる。タブレット端末などを使用した表現活動を今後さらに増やしていく。
数学	<p>学 落ち着いて授業に取り組んでいる。「頑張りたい」「解けるようになりたい」という思いをもっている生徒が多く、意欲的に学習に取り組み、積極的に問題を解いている。</p> <p>学 数学的に物事を捉えることができていない場面が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の習得状況の差が大きい。 ・自分の意見を書くことはできるが、仲間に説明したり、人前で、発表したりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。 ・数学的に物事を捉える経験に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力し合って、学習に取り組む機会を作り、教え合うことで、相互の理解を高める。 ・習熟度別少人数授業を活用し、基礎の定着に重点を置く生徒と応用力の強化を目指す生徒など個に応じた指導で個々の力を伸ばしていく。 ・グループ活動や発表などとおして、説明する力を伸ばし、学び合う中で理解を深めさせ応用力の強化を目指していく。 ・実生活の中で考えられる課題を出題し、レポートを作成させ、物事についての理解を深める。 ・eライブラリなどを使用し、授業・家庭でもタブレットなどを活用して学習に取り組ませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力し合って学習に取り組む機会をつくり、教え合うことなどとおして理解を深めさせている。 ・習熟度別少人数授業では、クラスの習熟度に合わせた演習問題に取り組むことで、個々の力を伸ばし、新宿区学力定着度調査の正答率も上がっている。 ・グループ活動を取り入れる場面をさらに増やし、効率的な学び合いができるように工夫している。 ・単元ごとに、実生活の中で考えられる課題を出題し、レポート作成などとおして考察させ理解を深めさせている。 ・夏休みの課題やレポート作成、授業や家庭でも、タブレット端末を活用して学習に取り組ませている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに合わせた演習問題に取り組むことで、基礎・基本、応用力を身に付けることができた。基礎・基本を定着させたうえで、習熟度別少人数のコースに合わせてプリントの内容を工夫し、応用力も強化できるような個に応じた支援を実施していく。 ・グループ活動などとおして、学び合いの中で理解を深め数学的な思考力・判断力を身に付けることができた。さらに向上できるよう今後も指導法を工夫していく。 ・レポート作成などにより表現力を活用する場面を増やすことができた。 ・課題やレポートの作成において、タブレット端末を活用することができた。
理科	<p>学 多くの生徒が理科に関する興味・関心があり、意欲は高いように感じる。</p> <p>学 事象を科学的に考えたり、他の事象と結び付けて考えたりすることが難しい場面が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するための方法を見出すことが課題である。 ・考えるのが苦手で、学習意欲に差がある。 ・単語は覚えても、その意味をきちんと理解していない場合がある。その場合、生徒は理解できたものと判断しがちで基礎的・基本的な内容の定着につながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を提示し、ICT を用いて問題を解決する方法を班員と協力して考えさせることで理解を深める。 ・グループ活動などとおして、考え方や表現力の向上を目指す。 ・学習アプリを用いて、定期的に課題を出すことで、予習や復習を行い、学習意欲をより高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年生は定期考査の結果から、知識・技能に比べると思考力・表現力が十分身に付いていない状況が分かる。今後は実験や観察後の考察の時間を重視し、思考力・表現力の向上を図る。1年生は定期考査や小テストの結果から、計算を含んだ問題が苦手なことが分かる。今後の授業で、定期的に計算を含んだ演習を行っていく。 ・全学年で課題に積極的に取り組むようになっている。今後は自らが課題を見出し取り組んで行けるよう、科学的探究型の授業展開を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に比べ現在では観察・実験などとおして身近な現象に興味をもち、さまざまな視点から現象をとらえる力が身に付いた。 ・ドリルソフトやオンライン活用学習ツールを活用して基礎的な計算力や知識が日々定着していく様子が見られた。今後も継続していく。 ・協働学習支援ツールを利用した考察を行うことで、これまで以上に科学的探求型の授業を実施できた。タブレット端末は基礎・基本の定着からより深い学びにまで幅広く活用できることから、今後もこうした授業を増やしていく。

英語	<p>学1年生は基本的な学習習慣や授業規律、学びに対する主体性を身に付けることが課題である。</p> <p>学2年生は基本的な学習習慣や授業規律を身に付け、主体的にコミュニケーションを図る意欲をもたせることが課題である。</p> <p>学3年生は、概ね落ち着いた態度で意欲的に授業に取り組んでいる。口頭でのやりとりはできても、正確に書くことができないことがあるので、英作文能力を高めることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の習得状況に個人差はあるものの、全体として「書く力(表現力)」と「知識・理解」をさらに伸ばすことが今後の課題としてあげられる。 ・単語や連語および慣用表現の選択の幅が広がったことを踏まえ、4技能【聞くこと・読むこと・話すこと(やりとり・発表)・書くこと】を総合的に育成することが課題としてあげられる。 ・ICTの利点を生かした効率的で分かりやすい授業の展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は3年間の基礎を作る学習習慣を身に付けるとともに、口頭練習を中心としながら、正しく丁寧な文字で、書く力を伸ばす。 ・2年生は、プリントを整理する習慣を付ける。reflectionsheet を取り入れ、次の見通しをもたせる。日々の授業で適度な負荷をかけ、達成感をもたせる。思考力を深める発問を取り入れ、要約や自己表現力の活性化に力を入れる。 ・3年生は、思考・判断・表現力を育てるため英作文に継続的に取り組んでいく。家庭での予習・復習のための学習や授業の活性化を進めるツールの一つとしてタブレット端末を活用し、社会でも活用できる技術と英語力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、イントネーションや表現などを考えながらの音読活動・発表や、自身についての英作文を継続する。ALT との対話活動を積極的に行い、表現力を高めるとともに、単元テストなどのスモールステップで意欲向上と実力アップを図る。 ・2年生は要約や英文QAをとおして、writing を継続的に取り入れている。ペア・場面を直前に発表し即興による「やりとり」で speaking を評価している。タブレット端末を有効活用し、題材の背景を調べたり、ポスターを作成したりすることをおして思考力・判断力・表現力の向上を図っている。また、reflectionsheet によりその時間で学んだこと、達成感を得たことなどについて継続的に振り返らせる。 ・3年生はスピーキングプレテストの練習をとおして、より即興性の高い場面での表現力強化に取り組んだ。今後は、ディベートや ALT との対話による「やりとり」も取り入れ、3年間の集大成として確かな表現力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を土台として、知識を技能として自発的に表現する力をさらに伸ばしていく。 ・全体をとおして「話すこと」「書くこと」が課題となっている。生徒の興味・関心の分析をもとに、生徒が積極的に表現したくなる即興スピーキングや発表課題の設定に継続的に取り組んでいく。 ・東京都中学校英語スピーキングテストの実施をふまえ、全学年でピクチャーディスクリビング(描写説明)や、ペアでのミニディベートなどを取り入れることとおして、知識を技能として活用し、表現力・応用力の向上を図る。
----	--	---	---	---	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。